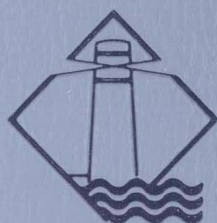

KENKYUSHA'S

LIGHTHOUSE

JAPANESE-ENGLISH DICTIONARY

SECOND EDITION



LIGHTHOUSE

JAPANESE-ENGLISH DICTIONARY

ライトハウス

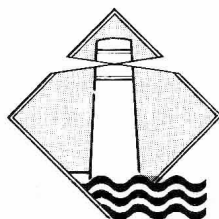
和英辞典

〈第2版〉

編者

小島義郎

竹林 滋



KENKYUSHA

KENKYUSHA'S
LIGHTHOUSE
JAPANESE-ENGLISH
DICTIONARY

初 版 1984年
第2版 第1刷 1990年



ライトハウス和英辞典

編 者	こしまよしろう たけはやしひろ 小島義郎・竹林 滋
発 行 者	長井四郎
発 行 所	株式会社 研究社 〒102 東京都千代田区富士見2-11-3 電話 編集 03(288)7711 販売 03(288)7777 振替 東京9-32260
組 版	研究社印刷株式会社
写真製版	株式会社 近藤写真製版所
印 刷	研究社印刷株式会社
製 本	株式会社 ケイ・ビー・ビー (研究社製本)

ISBN4-7674-2211-6
PRINTED IN JAPAN

ま え が き

本辞典の初版が出版されてから早6年の歳月が経過したが、我々は出版直後からさらに充実した内容にするための改訂作業を開始した。

初版の「まえがき」で述べたように、本書は従来の和英辞典のあり方を根本から見直して改善することをめざしたものである。それは一言にして言えば、和英辞典でひいた英語をもう一度英和辞典でひき直さなくてもよいような和英辞典を作ることであった。そのためには、従来の和英辞典とは全く次元の違う編集をしなくてはならず、初版「まえがき」にあげたように数多くの特徴を盛り込んだのであった。それらの中でも、

- (1) 訳語が2つ以上並列される場合は必ず意味または文体上の区別を記述した。
- (2) 文体上の区別を「前者のほうがより口語的」などのように相対的な記述とした。
- (3) 訳語は日本語の見出し語の品詞にこだわらず意味中心に記述した。
- (4) 日英比較を重視した。
- (5) 「類義語」欄を設けて意味の区別を記述した。
- (6) 用例はネイティブ・スピーカーの編集委員が徹底的にチェックした。
- (7) 用例に発想指示をつけた。
- (8) 用例にはなるべく複数の訳例を示すように努めた。
- (9) 概念・機能別の談話、文化情報、文法・作文関係などの囲み項目や欄外項目を多数載せた。
- (10) 動詞に ㊦ ㊧, 名詞に ㊨ ㊩ の区別を記述した。

などの特徴は特に重要なものとする。

このように、初版においてすでに多くの新機軸を実現させたので、今回の改訂では、内容の充実という点に重点を置くことにした。今回の改訂の主な特徴は次のとおりである。

- (1) 見出し語を再検討して追加・削除し、カタカナ語、会社の職名など実用的な語を中心に約3000語の増加となった。
- (2) 内容全体を再検討して加筆・訂正・削除し、用例をはじめすべての英語表現をネイティブ・スピーカーの編集委員が徹底的にチェックした。
- (3) 『ライトハウス英和辞典』との相互参照を新設し、より充実した情報の提供をめざした。
- (4) **日英比較** という欄を新設し、日本人の間違いやすい点に注意を与え、図表による説明も入れた。

なお、本辞典の初版以来、全国の利用者や各分野の専門家の方々から、多数の励ましやご教示を頂戴したことを深く感謝申し上げる。これらのご意見は今回の改訂で最大限に取り入れたつもりである。

今回の改訂に当たっては、旧編集委員、新たに編集委員に加わった増田秀夫氏、新たに執筆者に加わった高野嘉明氏、および調査・校正協力者の方々のご尽力を頂いた。深く感謝申し上げる。編者については、初版同様、本書すなわち『和英』では小島が、また姉妹編の『ライトハウス英和』では竹林が総括的な責任者である。また研究社にあっては、進行面で編集部課長小沼利英氏はじめ、担当者として終始ご尽力いただいた早川真一氏、篠田達美氏、担当者を常に補佐してくれた星野龍氏、片桐麻里氏にお世話になった。また面倒な組版では佐々木修造氏、大塚二之氏の諸氏にお世話になった。ここに記して深く感謝申し上げます。

最善を尽くしたつもりであるが、思わぬ不備な点もあることと思う。各位のご叱正をいただければ幸いである。

1990年8月

編者

「初版まえがき」(抜粋)

本辞典は『ユニオン英和辞典』の初版出版の翌年、すなわち1973年(昭和48年)にその姉妹辞典として編集を開始し、11年を費して完成した。本辞典と『英和』の第三版の出版を機に英和・和英の両辞典とも『ライトハウス』という名を冠することにしたが、この両辞典は編者が同じであり、したがって、その編集上の理念を一にしている。ただし、本辞典の編集開始後はある程度の方業を決め、竹林が主として『英和』の改訂を、小島が主として『和英』の編集を担当することにした。

本辞典は従来の和英辞典のあり方を根本から見なおして改善することをめざした。その第一は、和英辞典でひいた英語をもう一度英和辞典でひき直さなくてもよいような和英辞典を作ることであった。そのためには訳語の意味・用例・文法・語法・日英比較・背景等すべての面において従来のものとはまったく次元の違う編集をしなくてはならない。そこで、まず小島がかねてから和英辞典の改善案として考えていたことを最大限に織りこんだ規約と見本原稿を作った。それをもとに編者を含めた25名による執筆が行なわれ、原稿枚数は6万枚に達したが、それを小島が順次整理・統一して初校とした。次いで、初校と再校の段階では小島・竹林とともに編集委員の方々に校閲していただいた。とくに3名のネイティブ・スピーカーの編集委員の方々には英語表現を一つ残らず徹底的に検討していただいた。したがって、誤植などは別として、本辞典の英語表現に関する限り、すべてがネイティブ・スピーカーに容認されたものであると言ってよい。

本辞典は以上のような目的と経過により作られたのであるが、その特徴が非常に多くてこの「まえがき」の限られたスペースではすべてを述べることはできないので、詳しくは巻頭の「この辞書の使い方」を見ていただきたい。以

には我々が最も重要と考える特徴だけをあげることにする。

- (1) 見出し語はかな見出しとし、現代的な日常語を中心に選び、カタカナ語も多く収録した。
- (2) 訳語が2つ以上並列されるときは必ず意味の区別か、または文体上の区別を記述した。(ただし、コンマで区切られた入れかえ可能な訳語の場合は別)。
- (3) 文体上の区別は「前者のほうがより口語的」などのように、比較相対的な記述をすることを基本とした。
- (4) 文法・語法・日英比較・選択制限などに関する注意をできるだけ多く入れた。
- (5) 類義語の意味の区別と反意語を随所に入れた。
- (6) 訳語は見出し語の日本語の品詞にこだわらず、日英の対応関係の密接な順に配列した。(たとえばびょうきの項には ㊦ sick が ㊧ sickness よりも先にある)。
- (7) 動詞には ㊦ ㊧ の区別、名詞には ㊨ ㊩ をつけた。
- (8) 発音やアクセントの間違いやすいものにはそれを示した。
- (9) 日本特有の見出しについては説明的な訳を入れた。
- (10) 助詞および助動詞などの日本語について、日英比較を基にした解説を施した。
- (11) カタカナ語見出しの訳語には、原語との意味のずれに注意した。
- (12) 用例は現代口語を主とし、特別な場合を除きフルセンテンスで示した。
- (13) 問いの文にはその答え方も示すように、対話形式の用例を多くした。
- (14) 用例には(⇒)を使って発想指示を随所に入れた。
- (15) 発想指示より文型を示した方が有効と考えた場合は文型を表示した。
- (16) 用例には可能な限り複数の訳例を示すように努めた。
- (17) 複合語見出しはすべて第一要素でひけるようにした。
- (18) 日本語の慣用句を準見出しとした。
- (19) 文法・作文関係および会話・文化情報関係のテーマ別囲み項目を多数設けた。会話の部分については別売のテープとテキストを作った。
- (20) 作文に必要な文法事項・句読法などを中心に欄外項目を多数設けた。
- (21) 相互参照を徹底的に行なった。
- (22) 日本語表現についても校閲を行なった。
- (23) 挿絵・写真・表などを随所に入れた。

以上のとおりであるが、本辞典は単に学校用の学習辞典としてだけでなく、広く一般社会人にも役立つよう心がけたつもりである。それは政治・経済・文化・旅行会話など種々の情報が他の和英辞典に類例のないほど詳しいことを見ていただければわかると思う。

この辞書の使い方

1 見出し語

1.1 かな見出しを採用し、五十音順に配列した。

1.2 清音、濁音、半濁音の順に配列した。

こうとう 口頭, こうどう 行動, ごうとう 強盗, ごうどう 合同
はは 母, はば 幅, ばば 馬場, パパ

1.3 促音の「っ」、拗音の「ゃ」「ゅ」「ょ」は、それぞれ「つ」「や」「ゆ」「よ」の後に置いた。

ねつき 寝付き, ねっき 熱気

きやく 規約, きゃく 客

1.4 カタカナ見出し中の長音符(ー)は、その直前の文字を長く伸ばした音を「ア」行の音に置き換えた位置に配列した。

パーマ→パ^ーアマ, ビール→ビ^ーイル, クーラー→ク^ーウラ^ー,

ボール→ボ^ーール

1.5 同音語は引きやすさを考慮して、使用頻度が高いと思われる順に配列し、肩番号を付けた。ただし、カタカナ表記の外来語はひらがな見出しの後に置いた。

けっこう¹ 結構, けっこう² 決行, けっこう³ 血行, けっこう⁴ 欠航

かんば¹ 寒波, かんば² 看破, カンパ

また、「子牛」と「講師」または「行使」のように、ひらがな表記は同一でも音声的な内部構造が明らかに異なる場合は、「子牛」は「こうし¹」と、はっきり発音する文字の間に間隔をもうけ、「講師」「行使」はその後に、それぞれ「こうし¹」「こうし²」として、区別して配列した。

こうし 子牛, こうし¹ 講師, こうし² 行使, こうし³ 公私,

こうし⁴ 格子

ひろう 拾う, ひろう¹ 疲労, ひろう² 披露

1.6 助詞、助動詞、接頭辞、接尾辞など、独立して使われることのない語は、ハイフン(-)を付けて見出しにした。

-で¹, -で², -と, -という, -ので, -のに, -したい, -ねばならない

2 訳語

2.1 訳語が複数にわたり、意味上の区別やニュアンスの違いがある場合はセミコロン(;)で区切り、訳語の前に丸カッコでその違いを示した。意味領域、使用頻度、文体上から訳語の代表になり得るものがある場合には「★最も一般的な語」という注、あるいはそれに準じる注を施した。

あたえる 与える give ㊤《過去 gave; 過分 given》★一般的で平易な日常語。以下の語の代わりに用いられることも多い; (贈り物として進呈する) présent ㊤; (賞などを) award ㊤; (権利・許可・金品などを) grant ㊤ ★やや改まった語; (必要なもの、不足しているものを供給する) supply ㊤, provide ㊤ ★ 後者は備蓄のためというニュアンスがある; (割り当てる) allot ㊤; (仕事などを) assign ㊤。

みがって 身勝手 ㊤ (自分の利益ばかり考える) selfish ★最も一般的な語で、以下の語の代わりにも使える; (自分勝手の) égoistic; (自己中心的な) self-centered.

ほぼ同じ意味で交換して用いられる場合はコンマ(,)で区切って列記したが、文体上の差が認められる場合は★を用いてできる限り記述した。その際、列記したものが同じく口語的と思われる場合でも「★後者のほうがより口語的」のように比較相対的な説明を加えた。

2.2 訳語の文体上の差異については全般にわたって特に注意を払い、★を用いてできる限り詳しく記述した。単に「口語」「文語」などの絶対値を与えるのではなく、前項に述べたように、列記された訳語の中での相対関係として「後者のほうが格式ばった語」とか、「以上の中では最初の語が最も口語的」などのような説明が施されている。従って「前者のほうが口語的」とあっても、「前者」が絶対値として必ずしも《口語》というレベルに属するとは限らない点に注意されたい。

えんき 延期 — 働 (先へ延ばす) pùt óff ㊦, postpone ㊦ ★ 前者のほうが口語的。

すまず¹ 済ます 1 《終える》: finish ㊦, get through... ★ 後者がより口語的。

すいりょう¹ 推量 — 働 (当てずっぽうをする) guess ㊦ ㊧ ★ 最も口語的; (不確かな根拠に基づいて推測する) surmise ㊦, conjecture ㊦ ★ いずれも形式ばった語。

また、区別をきめ細かにするために「やや」という表現を用いて、「やや格式ばった語」とか「やや文語的」のような中間段階をもうけた。「格式ばった」「改まった」「堅苦しい」はほぼ同じ意味で用いてあり、統一はしなかったが、「文語的」は主として書き言葉で用いられる文学的表現という意味で区別してある。

かなり — 働 pretty ★ 最も一般的な語; (好ましい場合) fairly; (好ましくない場合) rather; (相当に) considerably ★ やや格式ばった語。

えいご 英語 English ㊦, the English language ★ 後者はやや改まった言い方。

かなた 彼方 — 働 (遠くに) 《口語》 a long way off; far away, far off, in the distance ★ far away, far off はやや文語的。

2.3 見出し語の品詞にこだわらぬ訳語をあげた。そのため — ㊦ — ㊧ — 働 — ㊨ — ㊩ — ㊪ — ㊫ — ㊬ — ㊭ — ㊮ — ㊯ — ㊰ — ㊱ — ㊲ — ㊳ — ㊴ — ㊵ — ㊶ — ㊷ — ㊸ — ㊹ — ㊺ — ㊻ — ㊼ — ㊽ — ㊾ — ㊿ など、英語の品詞を表示し、品詞ごとに訳語をまとめた。この場合、見出し語を英語に置き替える際に最も多く使われる品詞の項を最初に示した。なお、訳語が2種以上の品詞にわたる場合、あるいは訳語の品詞が1種類でも、見出し語の日本語の品詞と食い違いがある場合には品詞を掲げ、その他の場合や品詞を示すことにあまり意義がない場合は品詞を示していない。

しんせつ¹ 親切 — ㊦ (親切な・優しい) kind; (性格として) kindly; (人に対して道徳的に振舞う) good; (友好的な) friendly; (温かくもてなす) hospitable; (優しく思いやりがあって) tender, tenderhearted; (寛大な) generous. — 働 (親切に) kindly; (優しく) tenderly; hospitably. — ㊧ kindness ㊦ ★ 親切な行為の意では ㊦; kindness ㊦; (優しさ) tenderness ㊦; friendliness ㊦; hospitality ㊦.

びょうき 病気 — ㊦ (病気の) 《米》 sick, 《英》 ill (↔ well, healthy) ★ 名詞の前に置く場合は英米ともに sick; (健康がすぐれない) unwell ㊦; (長く患っている) ailing. — ㊧ illness ㊦, sickness ㊦; disease ㊦ ★ 以上は個々の病気を言うときは ㊦; (不健康) ill health ㊦; (持病) chronic 'disease [illness] ㊦; (故障) trouble ㊦.

しみん 市民 (市民・国民としての権利を持つ) citizen ㊦.

2.4 訳語の配列の順序については、見出し語の訳として最も適当と思われるものを最初に掲げるようにした。従って見出し語の日本語によっては、より格式ばった英語が先に置かれ、口語的で一般的な英語が後に並べられている場合もし

ばしばある。

2.5 訳語はアメリカで一般的に使われているものをあげ、もっぱらイギリスで使われるものについては《英》の表示をした。

2.6 数えられる名詞には ㊦, 数えられない名詞には ㊧ を表示し、どちらともとれる ㊦㊧ は避けて、見出し語との関連において ㊦ または ㊦ に割り切って表示し、さらに必要な場合には「★具体的なものを表す場合は ㊦」のような説明を加えた。詳しくは ㊦ 可算・不可算名詞 (欄外)。ただし、定冠詞を付けて訳語としたもの、複数形で訳語となるものについては ㊦ ㊦ を示していない。

ぜんと 前途 (将来) future ㊦ ★ 具体的なものを表す場合は ㊦; (見込み) prospects ★ 格式ばった語で、この意味では複数形で; (見通し) outlook ㊦。

ていど 程度 (段階・度合) degree ㊦ ★ 具体的な意味では ㊦; (範囲・限界) extent ㊦; (水準・高さ) level ㊦; (標準・基準) standard ㊦; (等級) grade ㊦。

2.7 動詞には ㊦ (=自動詞), ㊦ (=他動詞) を表示し、㊦ には見出し語との関連において結び付きの強い前置詞も併せて示した。また、もっぱら受身で用いられるものは受動態で訳語を示した。

かんじる 感じる feel ㊦ ㊦ 《過去・過分 felt》★ 最も一般的な語; (五感で知る) sense ㊦; (ものをあるがままに感じる) be aware (of ...); (意識的に感じる) be conscious (of ...); (感動する) be impressed (by ...; with ...); (心を動かされる) be moved (by ...).

つく¹ 付く 1 《付着する》: (くつつく) stick (to ...) ㊦; (こびりつく) adhere (to ...) ㊦; (しみがつく) be stained (with ...).

なお、訳語が「動詞+前置詞(句)」のような場合には、㊦ ㊦ を示さず、動詞または前置詞の目的語を「...」で示した。

しはん 市販 一 ㊦ (市場に出す) put ... on the market; (売られている) be on sale.

しみこむ 染み込む (水などが) soak into ...; (中へ深く入る) sink into ...

2.8 必要に応じて、不規則変化する動詞の過去形、過去分詞形、名詞の複数形を示した。

うつ¹ 打つ 1 《打撃を与える》: strike ㊦ ㊦ 《過去・過分 struck》; knock ㊦; hit ㊦ 《過去・過分 hit》; slap ㊦; pat ㊦; punch ㊦; box ㊦; beat ㊦ ㊦ 《過去 beat; 過分 beaten, beat》; (手を) clap ㊦。

さいころ die ㊦ 《複 dice》。

しらみ虱 louse ㊦ 《複 lice》。

2.9 形容詞で限定用法 (attributive use) のみに用いられるものには ㊦ を、また叙述用法 (predicative use) のみに用いられるものには ㊦ を表示した。詳しくは ㊦ 形容詞の 2 用法 (欄外)。

てつや 徹夜 一 ㊦ stay 'up [awake] all night. 一 ㊦ all-night ㊦。
一 ㊦ through(out) the night.

げんき 元気 一 ㊦ (達者で変わりのない) fine ㊦, well ㊦, all right ㊦, OK ㊦ 【語法】(1) 以上はいずれも口語的であり、ほぼ同意だが、OK が最もくだけた表現、OK は O.K. と同 Okay と書く。また well は《米》では ㊦ として用いられることもある。

2.10 丸カッコによる意味の区別だけでは不十分な項目については適宜【類義語】欄をもうけ、和英辞典という立場を意識した解説を施した。

けんせつ 建設 一 ㊦ build ㊦ 《過去・過分 built》; construct ㊦; erect ㊦. 一 ㊦ construction ㊦; erection ㊦. 一 ㊦ (建設的) constructive.

【類義語】いろいろな部品を組み合わせる建造物を作り上げるのが build

で、最も一般的な語。建てる作業よりも、あるプランに従って建造物を作り上げることを強調し、特に大きな建造物を建てることを意味する言葉が **construct**. 元は高い物を打ち立てるという意味で使われたが、現在では単に建てるという意味でも広く使われるのが **erect** で、作る過程より建設される事実重点がある。

2.11 訳語欄をもうけることが、かえって不自然な場合には、見出し語の後に直接用例を続け、さらに、理解を助ける語句を示すことが有効な場合には【参考語】として、用例の後に列記した。

ぴょんと 蛙が*ぴょんと池の中へ飛び込んだ A frog *hopped* [*jumped*; *leaped*] into the pond. (㊦とぶ²; 擬声・擬態語 (閉み))

【参考語】一 跳 (片足で、または足をそろえて跳ぶ) hop ㊦; (飛び上がる) jump (up) ㊦; (飛び越える・飛び込む) leap ㊦ ★ 意味によって over ..., into ... などが付く。

2.12 必要に応じて、(↔) により、反意語を示した。

2.13 イタリック体の *one, one's, oneself* はだいたいにおいて動作主を表し、文脈により I, my, myself, you, your, yourself, he, his, himself, she, her, herself, we, our, ourselves, they, their, themselves などに変化することを意味している。a person, a person's は動作主以外の人称代名詞または人名に置き換えられることを意味し、その他、限定できない場合は「...」で表示してある。また、イタリック体の *do* は、文脈に応じて適当な動詞に置き換えられることを意味する。

2.14 見出し語の日本語と訳語の英語の間に包括する概念のずれがある場合、理解の助けとなるように図表による説明を設けた。

ほん 本 book ㊦ (日英比較) (1) 日本語の「本」は広い意味で「雑誌」も含むが、英語では book と magazine (雑誌) とは明確に区別される。この日英の相違を表す1つの例が「単行本」という日本語で、雑誌その他と区別するために用いられるが、英語ではそのような言葉の必要がない。つまり book の説明的日本語訳が「単行本」であると言える

日 本 語	英 語
本	book
雑誌	magazine

3 用 例

3.1 用例はできる限りセンテンスで示し、平明で口語的な表現を心がけた。

3.2 和文中の見出し語該当箇所*に印を付け、対応する英文中の箇所をイタリック体で示した。

3.3 (⇒) により、日本語からは発想にくい英語構文の組み立て方をできる限り多く示した。日本語をまず日本語のまま英語的な発想の文に置き換え、その後でそれを英語に訳出する方法をとることが、和文英訳の学習法として有効であると考えたからである。しかし、慣れてきたら、発想指示を介せずに、英文が発話できるように練習していただきたい。詳しくは㊦発想 (欄外)。

-ぶり, ぶり ... 振り 1 《様子・仕方》 彼女の仕事*ぶりを見習いたまえ (⇒ あなたは彼女の仕事の仕方を見て彼女の例に習うべきだ) You should watch the way she works and follow her example. / (⇒ 彼女がいかに熱心に[能率よく]仕事をするかを) You should watch how *enthusiastically* [efficiently] she works and follow her example. // 数か月もすると彼は社長*ぶりが板についてきた (⇒ 社長を務めることが自然になってきた) After several months [in the position [on the job], serving as (the) company president [the president of the company] became natural to him.

3.4 必要な場合は、構文発想上の助けとなる文型を示した。文型はまず一般に用いられている五文型を基礎とし、その S (=主語), V (=動詞), O (=目的語), C (=補語) の各々の文の要素について、() を用いて作文上必要と思われる下位区分を示した。

その下位区分は (1) 動詞を中心として主語には「人」がくるのか「物」がくるのか、また目的語は「物」か「人」かなどの、言葉の結びつき方についての情報と、(2) 目的語や補語は「名詞」か「to 不定詞」か「-ing 形」か、形容詞か、それとも「that節」「wh-節」かなどの文法的情報の2種類の情報を与えるのが目的である。次にそのいくつかの例をあげる。

たのむ 頼む Ⅱ 彼は私にどうかお金を下さいと*頼んだ <S(人)+V(beg)+O(人)+for+名> He begged me for some money.

うえる¹ 植える Ⅱ 庭にはらを*植えた I planted roses in my garden. / <S(人)+V(plant)+O(場所)+with+名(植物)> I planted my garden with roses.

おしえる 教える Ⅱ 日本史は青木先生が*教えています <S(人)+V(teach)+O(人)+O(学科)> Mr. Aoki teaches us Japanese history. / <S(人)+V(teach)+O(学科)+to+名・代(人)> Mr. Aoki teaches Japanese history to us.

以上のように文型は日本文と英語の訳文との間に < > を用いて置かれている。これは日本文を見て、英訳する前に意味と文法の両面から、英語の文構造の基本となる形を明確にしておくためである。

本辞典を通じて、文型の記述はあまり多くない。それは、和文英訳ということを目的とする場合、文型よりも、むしろ(⇒)による発想指示のほうがより有効な場合が多いと判断したからである。従って、上に掲げた「うえる」「おしえる」のように、ほぼ同意の文が語順の違いによって複数訳出することが可能な場合などに限って文型が記述してある。なお、文型の記述法は『ライトハウス英和辞典』に準じているので、詳しくはその巻末の解説を参照されたい。

3.5 必要に応じて、問いかけの文章には答えの文章を、答えの文章には問いかけの文章を与え、対話形式の用例を多く採り入れた。

けっこう¹ 結構 2 《拒絶》 Ⅱ 「たばこはいかがですか」「*結構です。私はたばこは吸いませんので」「How about a cigarette?» “No, thank you. I don't smoke.” // 「コーヒーをもう1杯いかがですか」「もう*結構です。十分いただきました」「How about another cup of coffee?» “No, thank you. I've had enough.”

3 《是認》 Ⅱ 「これでよろしいでしょうか」「非常に*結構です」「Is this all right?» “Yes, that's perfectly all right.” (㊦ 許可の表現(囲み)) // 「ペンは持ってありません」「鉛筆で*結構です」「I don't have a pen.” “A pencil will do.”

3.6 ほぼ同じ意味で異なった言い回しや、スピーチレベルの異なる英文をできるだけ多く示し、文の区切りを斜線(/)で示した。なお、二重の斜線(//)は別の用例が続くことを示す。

3.7 語法、参考、日英比較、★などにより、用法上の注意や、文化的な参考事項を数多く示した。

4 相互参照

4.1 本辞典では(㊦)の記号を用いて相互参照をできる限り徹底するように努めた。相互参照は類義項目、関連項目はもとより、特に囲み・欄外項目への参照を徹底するように努めた。また、今回の改訂版から『ライトハウス英和辞典』との相互参照が新たに加わった。主として英和辞典欄外の文法用語解説への参照だが、これによってこれまでも増して多角的・立体的な情報を得ることが可能となるので、ぜひ活用していただきたい。

5 複合語見出し、成句

5.1 見出し語に準じる複合語は、用例の後に、五十音順で列記した。

5.2 複合語の見出しはすべて第一要素びきとした。例えば天然ガスは「てんねん 天然」の項に入っている。しかし、ガスの項の用例にも入れてある。このように複合語を第二要素の項目で再度取り上げるときは一貫して用例として示したが、重複も辞さず、複合語をすべて第一要素びきとしたことによって、使用者は複合語をどの要素でひいてよいか迷う必要がなくなったと信ずる。(ただし、結合度の強い複合語は独立した主見出しとなっていることに注意)。

てんねん 天然 — 図 natural (↔ artificial) 《コ しぜん》. 天然ガス natural gas ㊦ 天然記念物 natural monument ㊦ 天然資源 natural resources ★ 複数形で。

ガス 1 《燃料用ガス》: gas ㊦ 《コ きたい²》. ㊦ *ガスを出して[止めて]下さい Turn 'on [off] the gas, please. // *ガスの火を弱く[強く]しなさい Turn the gas 'down [up high]. // ここには*ガスが来ていますか Do we have gas service here? // 天然*ガス natural gas

ガス会社 gas company ㊦ ガス管 gas pipe ㊦ ガス警報器 gas alarm ㊦ ガスストーブ gas heater ㊦ ガスタンク gas tank ㊦ ガス中毒 gas poisoning ㊦ ガス爆発 gas explosion ㊦ ガス洩れ gas leak ㊦ ガス湯沸かし器 gas water-heater ㊦

あかしんごう 赤信号 red (traffic) light ㊦ 《コ しんごう》.

5.3 日本語の慣用句で、見出し語の訳語とは別種の訳語・訳文が当てはまるものは、日本語の成句として独立させ、用例の後、複合語見出しの前に、五十音順で配列した。

くび 首 1 《身体の部分》: (首の部分) neck ㊦; (頭) head ㊦

首が回らない ㊦ 彼は借金で*首が回らない (⇒ 耳[首]まで借金につかっている) He is in debt up to his 'ears [neck]. ★ ears がより一般的。

首を突っ込む ㊦ 彼は何にでも*首を突っ込む (⇒ かかわり合う傾向がある) He tends to 'be [get] involved in everything.

首を長くして待つ ㊦ あなたにお目にかかるのを*首を長くして (⇒ 楽しみにして) 待っています I'm looking forward to seeing you.

首をひねる ㊦ 私は難問に*首をひねった (⇒ 懸命に考えた) I thought hard 'over [at] the difficult question. / I puzzled my brain 'over [at] the difficult question.

首飾り necklace ㊦ 《コ ネックレス》 首切り (解雇) dismissal ㊦ 首筋 the 'nape [scruff] of the neck ★ nape のほうが一般的。《コ えりくび 語法》; くび》 ㊦ *首筋を遡る twist one's neck 首根っ子 ㊦ 彼は息子の*首根っ子をつかまえた He 'grabbed [seized] his son around the neck. 首輪 (犬の) collar ㊦

6 囲み項目、欄外項目

6.1 「語句と文化情報のためのもの」「文章構成のためのもの」、あわせて 76 の囲み項目をもうけ、多くは項目の最後に対話例を付け、実際の会話表現に役立つようにした。

6.2 文法的な解説、英作文上の注意、英文を書くときに必要な技術的な知識などを、78 の欄外項目に分けて示した。

7 挿絵、写真

7.1 集約的に単語の知識が得られる総合挿絵、日英の文化的な違いを示す挿絵、米英の掲示の写真などを多く採り入れて理解の助けとした。

8 記号、略号

8.1 この辞書で使われている記号には次のようなものがある。

()	(1) 訳語の前で、意味の説明を包む。 (2) 上記以外の箇所では、省略可能な文字・語句を包む。
[]	入れ替えて用いることが可能な語句を包む。
「 」	[] の箇所と入れ替え可能な語句の始まりを示す。
《 》	語形変化、略語を包む。
« »	項目を大きく分類するときの種別を包む。
/ /	発音表記を包む。
(⇒)	発想指示を包む。
(↔)	反意語を包む。
《☞ 》	参照すべき項目の見出し語を包む。
¶	用例の最初を示す。
/	用例中で、異なった英語の言い回しを続けるときにセンテンスを区切る。
//	別の用例が続くときに、用例全体を区切る。
*	用例の日本語における見出し語該当箇所を示す。
～	見出し語と同じつづり、または発音を表す。
★	注意すべき説明。

8.2 この辞書で使われている略号には次のようなものがある。

〔名〕	名 詞	〔形〕	形容詞	《米》	米国用法
〔固〕	固有名詞	〔副〕	副 詞	《英》	英国用法
〔代〕	代名詞	〔接〕	接続詞	過去	過去形
〔動〕	動 詞	〔前置〕	前置詞	過分	過去分詞形
〔自〕	自動詞	〔感〕	感嘆詞	現分	現在分詞形
〔他〕	他動詞	〔接頭〕	接頭辞	動名	動名詞
〔助〕	助動詞	〔接尾〕	接尾辞	複	複数形

囲み項目索引

*あいさつ	2	親族関係	788
*相づち	5	新聞の英語	794
味	19	推量の表現	806
家・部屋	61	*数字	808
意志・願望の表現	73	スポーツ	832
衣服	102	政治・経済	849
*依頼の表現	110	*選択の表現	891
色	114	台所・家事	949
受身	125	*提案・勧告の表現	1089
映画	156	手紙の書き方	1101
大きさの表し方	181	*天候の表現	1125
重さの表し方	222	*電話の英語	1133
音楽	231	動物の鳴き声	1155
会社の組織と役職名	242	時・期間の表し方	1164
*買い物	252	度量衡	1208
数の数え方	288	日記	1259
学校・教育	301	日本固有の風物と英語	1263
仮定の表現	306	*乗り物	1305
可能の表現	313	花	1349
*感謝の表現	342	比較の表現	1384
感情の表現	343	否定の表現	1402
感嘆の表現	348	*病気・病院	1419
擬声・擬態語	371	頻度を表す副詞	1436
義務の表現	386	*訪問の表現	1530
強意語	405	*ホテル	1545
強調の表現	413	店の呼び名	1602
許可の表現	418	*道のきき方	1606
金銭	434	命令の表現	1642
掲示の英語	480	目的・結果の表し方	1659
コンピューター	586	野球の英語	1679
使役	631	呼びかけ	1728
*時刻・日付・曜日	642	理由の表し方	1753
自然災害	653	量の表し方	1756
自動車	676	料理の用語	1760
*謝罪の表現	693	*旅行	1762
*紹介	731	*レクリエーション	1773
譲歩の表現	747	*レストラン	1775
食事	755	和製英語	1795

* 印の項目内の対話例は、テキスト付き別売カセットテープ『ライトハウス英会話』に、さらに内容を拡充して吹き込まれています。

欄外項目索引

アポストロフィー	38	接尾辞	874
アンダーライン	53	セミコロ	877
イタリック体	82	前後関係	882
イディオム	96	総称用法	906
意味	106	代名詞	955
引用符(号)	119	多義語	964
英作文	158	脱字記号	981
エトセトラ	164	ダッシュ	981
婉曲語法	167	短縮形	1005
大文字	185	つづり字の切れ目	1070
可算・不可算名詞	283	訂正	1094
かっこ	300	丁寧な表現	1096
冠詞	339	同音異義	1139
感嘆詞	346	同格	1139
感嘆符(号)	347	倒置	1150
擬人化	368	日本語の消極的表現	1262
疑問詞	389	「はい」と「いいえ」	1311
疑問符(号)	390	ハイフン	1318
くだけた英語と堅苦しい英語	449	発想	1344
句読点	457	話し言葉と書き言葉	1351
形容詞の2用法	485	パラグラフ	1361
語順	554	パラフレーズ	1363
誇張	558	反意語	1370
語法	570	控えめな表現	1382
コロケーション	578	比喩	1416
コロ	579	標準英語	1426
コンマ	585	ピリオド	1430
再帰代名詞	590	付加疑問	1443
字さがり	645	副詞の位置	1448
時制の一致	651	複数形	1449
借用語	692	不定詞	1470
自由作文	701	文	1492
修辞疑問	702	文型	1494
省略	750	分詞構文	1494
所有格	766	文体	1495
進行形	780	翻訳	1558
性	840	略語	1750
性・数・人称の一致	841	類義語	1766
接頭辞	873	話法	1799

あ

ああ Oh!, Ah! 【語法】前者のほうが一般的で用途も広く、日本語の「ああ」以外に「やあ」「あら」「まあ」((例) Oh, hi, George!), 「ほう(そでどうしたんですか)」((例) Oh? 「上り調子」) などにも当たる; (ははあ, なるほど) Aha /a:há:/; (とこで・やっと) now ★話題や気分を変えたり, 注意を促したりするときなどに用いる; (やれやれ) well ★安心・あきらめ・譲歩などの気持ちを表す。《☞ 感嘆詞 (欄外)》。

『*ああ, きれいだ Oh, how beautiful! 《☞ 感嘆の表現 (囲み)》』 『*ああ, わかった Aha! Now I understand.』 『*ああ, (あの子は) かわいそうに The [That] poor [boy] [girl]!』 『*ああ, もし金があればなあ Ah! If I (only) had money. 《☞ 仮定の表現 (囲み)》』 『*ああ, 思い出した Now I remember (it).』 『*ああ, やっと着いた Well, here we are at last.』

ああいう (あのうな) such; (あんな風) like that (way). 《☞ あんな; そういう》。

アーケード arcade ㊦; (歩行者専用の商店街) mall ㊦。

アース 一 ㊦ (アース線) 《米》ground ㊦, 《英》earth ㊦。一 ㊦ 《米》ground ㊦, 《英》earth ㊦。『洗濯機の*アースを付ける ground [earth] the washer』

アーチ 一 ㊦ ㊦ arch ㊦。一 ㊦ (アーチ形) arched. 『*アーチ型の入口 an arched doorway』

アーモンド almond /á:mənd/ ㊦。

アール (面積の単位) are /éə/ ㊦ 《略 a》《☞ 度量衡 (囲み)》。

あーん あーん 『子供が*あーん あーんと泣き続けた The child kept crying loudly. 《☞ 擬声・擬態語 (囲み)》』

あい¹ 愛 (親子・異性間などの強い愛情) love ㊦ ★最も一般的で, 以下の語の代わりに使える場合も多い; (温和で永続的な愛情) affection ㊦ ★しばしば複数形で; (愛着) attachment ㊦, 《☞ あいする; あいじょう (類義語)》。

『親の子に対する*愛 parental love』 『あなたに対する彼の*愛は本物ですよ (⇒ 彼は本当にあなたを愛している) He really loves you.』 『彼女の*愛 (⇒ 心[愛情]) を勝ち得るのはだれだろう Who will win her [heart] [affections]?』 『彼は祖国*愛に燃えていた He was burning with [love of his country] [patriotism].』

あい² 藍 (染料) indigo ㊦, あい色 indigo ㊦, indigo blue ㊦, 《☞ 色 (囲み)》。

あいいれない 相容れない 『彼の考えは私の考えと*相いれない (⇒ 衝突する) His views [clash with] [run counter to] mine.』 『彼の思想は時勢と*相いれなかった (⇒ 調和してなかった) His ideas were out of harmony with the time(s). 《☞ あいはんする; むじゅん》』

あいかが 合鍵 duplicate key ㊦; (ホテル・アパートなどの親鍵) master key ㊦, 《☞ かぎ》。

あいかわらず 相変わらず (いつもと変わらず) (as) ... as [ever] [always] 【語法】最初の as を省略するほうが口語的; (いつものように) as usual; (以前のように) as before; (いつも) always.

『彼女は*相変わらず美しい She is as beautiful as [ever] [always].』 『私は*相変わらず (⇒ いつものように) 忙しい I'm busy as usual.』 『「どうだい, 景気は」 「*相変わらずさ (⇒ まあまあさ)」 “How's your business going?” “Only so-so.”』

あいがん 哀願 一 ㊦ (切実に哀願する) implore ㊦; (懇願する) entreat ㊦; (恩恵などを頼む) beg ㊦ 【語法】最初の 2 語は beg より改まった語だが, 日本語の「哀願」というニュアンスに近い。《☞ たんがん; こんがん; たのむ》。『彼女は彼と一緒にいてくれるように*哀願した She [implored] [entreated] [begged] him to stay with her.』

あいぎ 合着, 間着 spring [fall] clothing ㊦。

あいきょう 愛敬, 愛嬌 一 ㊦ (魅力のある) charming, attractive; (愛想のよい) amiable. 一 ㊦ charm ㊦; amiability ㊦, 《☞ かわい》。『彼女はなかなか*愛敬がある She's very charming.』 『She has an attractive personality.』 『彼女は来た人みんなに*愛敬をふりまいた She turned on her charm [for] [to] everyone who was there.』

あいけん 愛犬 one's (pet) dog ㊦, 愛犬家 dog lover ㊦。

あいこ 一 ㊦ (同等の) even; (貸し借りのない) square. 『さあ, これで*あいこだ Now we are even.』

あいこう 愛好 一 ㊦ (愛する) love ㊦; (好む) like ㊦, be fond of ... ★ be fond of のほうが like より意味が強い。《☞ すき (類義語)》。『愛好家 (一般に) lover ㊦ 《☞ ファン》。』 『彼は熱烈な音楽*愛好家だ He is an ardent lover of music.』

あいこうしん 愛校心 love [for] [of] one's school ㊦。

あいこく 愛国 一 ㊦ (愛国心の強い) patriotic. 『彼は*愛国の念にかられた He was filled with [patriotic sentiment] [love of his country].』 愛国者 patriot ㊦ 愛国心 patriotism ㊦。

あいことば 合言葉 (敵味方を見分ける) password ㊦; (スローガン) watchword ㊦。

あいさい 愛妻 one's (beloved) wife ㊦。

あいさいか 愛妻家 devoted [loving] husband ㊦。

あいさつ 挨拶 1 «口頭・会釈など» 一 ㊦ greeting ㊦, salutation ㊦ ★後者は文語的。一 ㊦ greet ㊦, salute ㊦, 《☞ おじぎ; れい²; えしゃく》。『我々は入口で*あいさつを交わした We exchanged greetings at the』

あいさつ

1 会ったときのあいさつ

(1) 一般的に

おはよう《午前中》のあいさつ Good morning.
 こんにちは《くだけた感じで》Hello. / 《さらにく
 だけで》Hi. / 《午後になって》Good after-
 noon. ★ やや改まったあいさつ.
 こんばんは Good evening.

日本語では下図のように、《朝》「おはよう」、
 《昼・午後・夕方》「こんにちは」、《晩》「こんばん
 は」とあいさつを区分する。ところが英語では1
 日を morning (午前中), afternoon (午後),
 夕食時を境にして evening (晩) と分け、それ
 に従って Good morning., Good after-
 noon., Good evening. とあいさつする。

日本語:

おはよう	こんにちは	こんばんは
夜明け	10時	6時
朝	昼(間)	夕方
		晩

英語:

Good morning.	Good afternoon.	Good evening.
午前0時	正午	夕食時
morning	afternoon	evening

従って、Good morning. は「おはよう」だ
 けでなく、ときには日本語の「こんにちは」にも当
 たるし、Good afternoon. は日本語の「こん
 には」の全部には当たらないことに注意。

なお、Good afternoon., Good evening.
 はかなり改まったあいさつなので、最近あまり使
 われなくなる傾向にある。親しい間柄、または親し
 みを表す必要のあるときは Hello /hə'ləu/, Hi
 /há:/ を用いることが多い。この2つは朝・昼・
 晩の時間に関係なく、1日中いつでも使える。

(2) 知人に

「やあ、こんにちは。いかがですか」「元気ですよ。あ
 なたは」「Hello. How are you?」「Fine
 (, thank you). How are you?」 [語法]

対話例

A: 岡野さん、おはようございます
 B: ポール君、おはよう。元気ですか
 A: 元気です。あなたはいかがですか

B: 快調ですよ。でも忙しくてね

A: 岡野さん、もう帰ってもよろしいですか
 B: ええ、君の仕事はきょうはこれまでだ
 A: ありがとうございます。では、またあしたお目
 にかかります
 B: 結構。じゃ、さよなら
 A: さようなら

A: ポーラ! しばらくだね

B: あら、こんにちは、ポール!

最初に How are you? と言う人は are に強い
 強勢をおいて言っても、you を強めてもよいが、
 答える人は you を強く高い調子で発音する。
 なお、Fine. の代わりに少しくだけた調子なら
 (I'm) OK [all right]. でもよい。
 ご家族はいかがですか How's your family?
 あなたはいかがですか How's everything with
 you?

近ごろいかがですか How have you been
 lately?

ずいぶん久しぶりですね It's been a long time
 (since I last saw you. [, hasn't it?]) / I
 haven't seen you for a long time.

[参考] 初対面の人に対するあいさつ。および
 天候のあいさつについては Ⅱア 紹介 (囲み); 天
 候の表現 (囲み)。

2 別れるときのあいさつ

(1) 別れの言葉

さようなら Good-bye. / So long. ★ くだ
 けた言い方で、目上の人には普通用いない。/
 Good night. ★ 夜分に別れるときに用いる。/
 《英》Cheerio ★ くだけた調子の言葉。

またお目にかかりましょう (I'll) see you 'again
 [later]. ★ 単に (I'll) see you. ともいう。こ
 の言葉は Good-bye. の代わりになることも
 多い。

元気でね (⇒ 気をつけて) Take care. ★ くだ
 けた言い方。

おいとましくなくてはなりません I'm afraid I'd
 better 'say good-bye [be going now].

(2) 伝言を頼むとき

お父さん[お母さん]によろしく Please say hello
 to your 'father [mother] for me. ★ くだけ
 た言い方で日常よく用いられる。/ Please give
 my best 'regards [wishes] to your 'father
 [mother]. / Please remember me to your
 'father [mother]. ★ 後の2つはやや改まった
 言い方。

A: Good morning, Mr. Okano.

B: Good morning, Paul. How are you?

A: Just fine, thank you. How's every-
 thing with you?

B: OK, but busy.

A: May I go home now, Mr. Okano?

B: Yes, you're finished for the day.

A: Thank you. I'll see you tomorrow,
 then.

B: Good. Well, so long.

A: Good-bye.

A: Paula! I haven't seen you for a long
 time.

B: Oh hi, Paul!